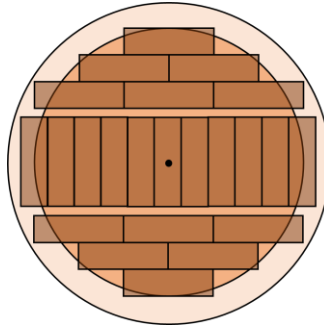


スギ大径材から得られるラミナの強度特性

スギ人工林の高齢化により、今後さらに「大径材」（直径30cmを超える丸太）の生産量増加が予想されており、大径材の利用拡大が求められています。大径材では、同じ丸太から複数の製材品が得られます。得られた製材品がそれぞれどのような強度特性を示すのかを把握することは、大径材への理解が深まり、大径材の利用拡大につながります。そこで、大径材から「ラミナ」（集成材の元となる板）を可能な限り製材した場合、どのような強度特性を示すのかを調べました。



スギ大径材



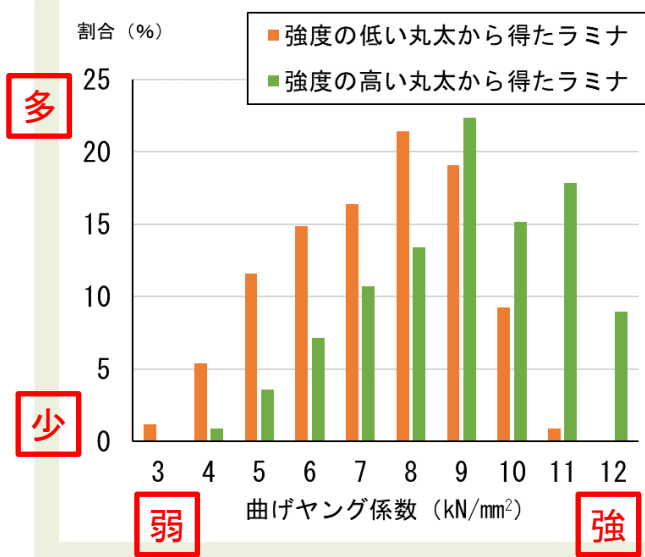
ラミナ製材図
(黒点は丸太の髄)



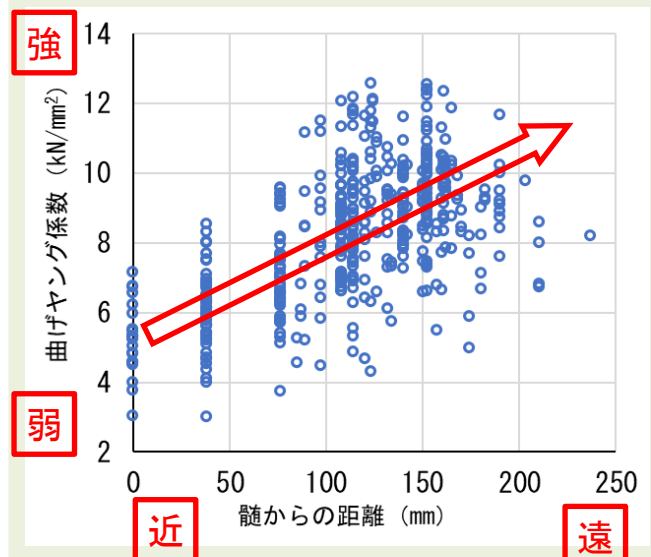
集成材
(構成している板がラミナ)

結果

※ 強度 = 「曲げヤング係数」 (変形しにくさ)



強度の高い丸太から、強度の高いラミナを多く得られた。



髄から遠い位置にあるラミナほど、強度が高かった。

わかったこと

より強度の高いラミナをたくさん欲しい場合は、**強度の高い丸太の、髄から遠い位置（樹皮付近）**から、ラミナを製材すれば良い！

お問い合わせ

林業研究所 森林資源部 (TEL017-755-3257)